

報告者 顧問 若杉たかし
事務局長 片山明子

平成27年度 交通安全教育指導者研修会

期日 平成28年1月28日(木)～1月29日(金)
会場 独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合センター 101研修室
主催 (一財)日本交通安全教育普及協会(JATRAS) <http://www.jatras.or.jp/>
後援 内閣府
参加者 93名(全国から行政、警察、交通安全指導関係者が参加)

1日目

講義1
講義2
実践発表1

2日目

実践発表2
実践発表3
実践発表4
班別協議
全体会



【 1 日 目 】

- [講義1] 子どもの交通安全教育 ～通学路の安全を考える～
順天堂大学医学部協力研究員
NPO 法人日本こどもの交通安全教育総合研究所 理事長 宮田美恵子
- [講義2] 高齢者の交通安全 ～高齢歩行者の特性と交通安全教育～
東京都健康長寿医療センター研究所
老化制御研究チーム副部長・運動科学研究室長 青柳幸利

[実践発表1] 市民活動団体としての交通安全教育
交通教育 NPO OSCN じてんしゃスクール 代表 片山 昇
顧問/理事 若杉たかし
事務局長 片山 明子

【 2 日 目 】

- [実践発表2] 交通指導の実践発表
岐阜県海津市 交通指導員 牧野和子・倉田幸子
- [実践発表3] 高齢者に対する交通安全指導について
茨城県つくば市 交通安全教育指導員 大川初枝・廣瀬明子
- [実践発表4] 交通安全教育の新たな取組
(一財)日本交通安全教育普及協会 普及事業部 部長 加藤重樹
- [班別協議] 幼児班 児童班 高齢者班 広報等班
- [全体会]

[実践発表1] (45分)

～市民活動団体としての交通安全教育～ 交通安全教育 NPO OSCN じてんしゃスクール

※当日のパワーポイントは、ホームページ上で閲覧可能(www.oscn-school.org)

①OSCNの全体像

(15分 担当:片山 昇)

- ・ 交通安全教育を始めるきっかけ
- ・ 市民活動団体とは
- ・ さまざまな事業
- ・ 協働機関

②体操

(2分 担当:若杉たかし)

リフレッシュタイム。
じてんしゃスクールの準備体操を会場全員で。

③「じてんしゃスクール」

(8分 担当:片山明子)

- ・ 親子で体験 <共通体験>
- ・ スケジュール・コース図・募集チラシ・申込状況データ
- ・ ボランティアスタッフ

④尾張旭市と市民活動

(8分 担当:若杉たかし)

- ・ 尾張旭市の紹介
- ・ 市と市民活動団体の協働

⑤新たな取り組み

(12分 担当:片山 昇)

- ・ 公立小学校における3段階の出前授業
- ・ アンケートデータ
- ・ 3年間の活動から分かったこと ～ 今後の課題 ～
- ・ CD「OSCN じてんしゃスクール放送局」 視聴



OSCNの45分実践事例発表



あさぴーと共に、じてんしゃスクールの準備体操！

講義の中で、強く印象に残ったポイント

[講義1] 子どもの交通安全教育 ～通学路の安全を考える～ 講師 宮田美恵子

- 交通事故死亡者数 <昭和45年 1万6千人><現在は、その4分の1>
- 昭和40年代道路はコミュニケーションの場でもあった (子ども:遊び場 大人:縁台)
- 相手の安全について、配慮できることが大切
- 心地よい空間を保つ(パーソナルスペース 相手との間 約1, 2m)
- 道路の安全チェックは、子どもの目線(高さ・行動)で行うことが重要
- 植え込み、看板、電柱、ごみの集積など、大人にとっては、わずかな物でも子どもの目線では、障害物や死角になる
- 交通安全教育は、楽しく学ぶ工夫が、不可欠
- 大人もヘルメットをかぶるための案 (地域や職場など全体で取り組むなど)

[講義2] 高齢者の交通安全 ～高齢歩行者の特性と交通安全教育～ 講師 青柳幸利

- 調査研究のデータをもとにした、年齢層別の特徴の解説
 - <警察庁:中高年齢層の歩行中死亡事故を抑止するための段階的交通安全教育手法の調査研究より>
 - ・ 40, 50歳代は、交通安全に対する意識は低いものの、身体機能が(上の年齢層と比べ)高いことから、危険行動を補った行動をしていると思われる。
 - ・ 60代は、前後の年齢層の中間的評価となっている。定年退職などライフステージが変更する年齢層であるため、有効な交通安全教育が必要だと思われる。
 - ・ 70, 80歳代は、交通安全に対する意識は高いものの、身体能力が低下していることもあり実際には、道路において危険な、斜め横断などを行う傾向にある。
- 健康であること = 交通安全
- 横断歩道を 1m1秒以内で渡る = 健康のわかりやすい基準

[講義1] と [講義2] の共通点

社会問題を一つの機関、一つの部署で対応するのではなく、多方面からの連携によって取り組むべき時代にきている。

感想

OSCN 顧問・理事 若杉 たかし

日本交通安全教育普及協会 “交通安全教育指導者研修会”に参加して思うことは、交通安全に関して、どこも苦労しているな、ということです。

いろいろな地域の発表を聞きました。どこも素晴らしい活動がされています。参考になる事例も多々あり、研修会の意義は、ありました。

しかし、全国どこも同じような交通安全の悩みを持って活動をして、答えが出せないでいます。間違いないと思われる活動をして、なかなか結果が出ない…。難しいですね。

また、行政主導の交通安全には、限界があると感じました。行政と市民が共に協働していかなければならない。その点で、OSCNの活動は、その方向性を示していると考えます。

交通安全に部外者はいない。すべての人が当事者意識を持たないと、交通安全は成り立たない。

すべての道が、道路法規に適しているわけではない。道は通るモノすべてが共同で使わなければならない。その共通のマナーを持つことが重要であると感じました。

感想

OSCN 事務局長 片山 明子

2人の研究者の講義を聴き、「データの説得力」を改めて感じました。「データ」や「実践」に裏打ちされた「思い」は、論理的に誰にも受け入れられやすいということです。

その一方で、同じ研究者から「楽しく学ぶ工夫が必要」「多方面の連携によって取り組むべき」との話しを聴き、新鮮な驚きを感じました。(データを取るまでもなく)「楽しさ」と「連携」は、人と人とのネットワークにおいて、根本的なものなのだと再確認できました。

交通安全教育の現場で子どもたちに接している方は、日々のご指導に、すぐに導入できるアイデアを求めておられる、一方で、既存の指導方法に漠然とした疑問も抱えておられる、という印象を持ちました。

1日目のOSCNによる実践発表の直後、参加者の方々から声を掛けられました。模擬ハンドル(新聞紙で作ったもの)に強い興味を持って下さり、合わせて、ブレーキのかけ方をどのように未就学児へ伝えたらよいか、との悩みも相談されました。

(OSCNスタッフの)自転車を通した体験や知識が、少しでも全国の指導者の方々の参考になれたなら幸いです。